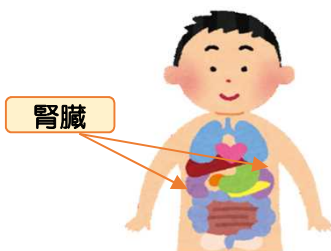


腎機能

腎臓は主として体内の余分な水分や不要物を尿として排泄する役目をしています。腎臓の病気で、血液中に不要物が溜まると、腎不全の状態になります。

尿検査が腎臓病の有無を知る基本的な検査ですが、腎臓機能の程度は尿素窒素やクレアチンの血中濃度を測って推定します。



項目	説明
尿素窒素	尿素窒素は、蛋白質が体の中で分解されたときにできる物質の一つです。 大部分は尿中に排泄されますが、腎臓の排泄機能が悪くなると、血液中の尿素窒素の濃度も高くなります。 腎機能異常の他にも、蛋白質をたくさん摂取した場合、もしくは運動や発熱の後など水分が血液から失われたり、筋肉等の蛋白質の破壊が起こった場合でも高い値になることがあります。
クレアチニン	クレアチニンは、肝臓で筋肉中のクレアチンから合成されてできる物質です。 一般的に男性の方が筋肉量が多いので、基準値は女性よりも高めになります。 尿素窒素と同じように、大部分は尿中に排泄されますが、腎臓の排泄機能が悪くなると、血液中のクレアチニンの濃度も高くなります。
eGFR	血清クレアチニン値と年齢、性別、体表面積から推算式で算出した推算GFR（eGFR：estimate Glomerular Filtration Rate）です。 腎臓の動きを示す指標で、慢性腎臓病を早期発見し、早期に治療を開始できます。対象年齢は、18歳以上です。